

令和2年度 事業報告書

沼津あすなろ幼稚園

I 事業方針

1 教育事業の推進について

- (1) 年間行事計画のもとに事故もなく無事に全教育事業を推進することができた。教育目標については、まだ改善の余地はあるが、だいぶ近づいてきている。環境づくりの点ではよい保育を求めつつ全職員が努力し、人的・物的・自然環境等を生かしながら、子どもたちの楽しい活動が展開されたものと思う。
- (2) 保護者への連絡については、こまごました行き違いはあったが、簡単メールシステムをこまめに活用するなどして不信感を招くよことの無いように努めてきた。トライアングルの信頼関係を保ちながら、楽しい幼稚園の実現を目指すことができた。
- (3) 配慮を必要とする子供が若干名いたが、関係機関の協力を得ながら教師の温かな指導と全職員の連携・協力によって、好ましい方向に育ってきている。今後も見守っていききたい。

2 予算編成の基軸について

- (1) 少子化・景気の停滞感の中でも、園児数は横ばいであったが、経費の無駄を更に省くとともに少人数の良さを生かしてスムーズに事業が推進できるよう配慮しつつ、県からの経常費補助金により安定した予算編成を行うことができた。
- (2) 本年度も、夏期休業中、冬季休業中、春期休業中の預かり保育も拡充することができた。
- (3) 引き続き預かり保育専任講師の雇用を確保し、預かり保育を安定的に実施する体制を維持して保護者の要望に応えることができた。

3 具体的な事業と内容について

(1) 教育計画

- * **保育の充実** 保育計画により園児が精一杯遊び込めるように年間の計画が生まれ、ほぼ順調に進めることができた。一学期の初夏の遠足、お祭り、二学期の運動会をはじめとする諸行事も無事に終了することができた。生活発表会は2日間開催としたが滞りなく実施出来た。三

学期が過密になる傾向については、1学期と2学期、2学期と3学期を目的的に結合させる工夫した保育をすることでかなり改善できた。

週案の作成、提出状況も良好で教育目標を目指した保育が行われ充実した一年であった。変化の激しい時代に適切に対応しつつも不易の部分をもどのように実施していくかという課題も常に意識していく必要がある。

- * **教員の研修** 日々の保育が何よりの研修であるとの考えから、常に子どもとの関わりから学ぶ姿勢を大切にした。週案を通じての保育者とのやり取りも研修を進める上で効果があった。一方、全体打ち合わせの機会を捉えて随時保育のあり方についての話題提供をし、共通意識を持てるように努めた。教師には常に笑顔を絶やさず時に優しく時に厳しい姿を見ることができた。教育実習生との関わりは己の活動を振り返る良い機会になった。

対外的な研修については、初任者研修会および2年目教員研修会をはじめ県私学振興協会の夏季研修会や沼幼研の教職員研修・研究大会などに積極的に出席し、大きな成果をあげることができた。

平成生まれの教員が増加しており、自然や伝統的行事に関する素養に不安を覚えるので園内研修に計画的に取り組む必要がある。

(2) 研究計画

- * **古里づくり** 「心の古里づくり」の推進については、例年のように縦割りグループ（動物グループ）を編成し、異年齢園児同士の「絵本を見る会」「好きな遊び」「レストランごっこ」、「お店屋ごっこ」各種の運動遊びを通しての交流等、楽しい活動を実施することができ、いろいろな場面で思いやりの心が育ってきている。

- * **動物グループの実践** 縦割り保育の活動により、人間関係の広がりができた。また、友達のよさにふれたり思い遣りのある行為が見られたりと活動の成果が表れる場面がよく見られるようになり、人間らしい心を持った子どもに育ってきている。異年齢児との遊びからは、子ども同士の教育力の大きさを感じた。次年度も更に実践を積み上げていきたい。

(3) 地域連携計画

- * **小・中学校との交流** 本年度も沢田小学校の児童との交流活動を通して、校種間の連携・協力を図ることができた。金岡コミュニティ活動への協力、沢田地区の祭りや少年野球大会等へ協賛するなど自治会の行事への奉仕・参加・協力をすることができた。金岡中・第五中生徒の職場体験の活動も受け入れ効果的であった。

- * **椎路の里との交流** 地元にある高齢者福祉施設「椎路の里」の訪問活動は、例年どおり運動会・生活発表会の後の2回実施する事ができた。演技披露の後には、握手をしたり抱擁したりする感動的な場面が今年も見られ、人と人とのかかわりの体験から高齢者へのいたわりの心など豊かな心を育てるうえでも貴重な機会であるので次年度以降も交流していきたい。

(4) 施設・設備計画

- * **遊戯室屋根雨漏り修理、北門交換工事** 風雨で被害を受け、修繕・交換をしてリフレッシュした。
- * **園庭周辺及び遊具の充実** 5月には園庭を囲む生垣の消毒（毛虫対策）及び剪定、夏期休業中に遊具のペンキ塗りなどを実施した。このほか、砂場の砂の補充、園庭の整備など子どもたちが十分外遊びを楽しめるように細かい配慮をした。

(5) 管理運営計画

- * **人的・物的両面の管理** 人的な面においては、本年度採用した2名はよく研修に励み、働きやすい職場・明るい職場の中で前向きに保育や分掌に取り組みこの1年間で保育者としての力を伸ばすことができた。

明るい笑顔のある職場、協力し合う職場を大事にして保育することに努め、園児及び保護者そして外来者に対しても笑顔と優しさで接することができた。チームあすなろは、一定の評価を得たと考えている。
- * **施設・設備・備品等の管理** 使用状況をよく観察し、安全な遊び方の指導を徹底した。また、未然に危険を防止するために遊具の点検を定期的実施した。学年当番制での点検だが、事務長・園長も視点を変えて点検し、安全性の向上に努めた（グリース・注油等も）。園舎、保育室、外回りなどの不具合については、報告・連絡を密にして速やかに対策を施してきた。
- * **文書の整理と保管** 文書管理についてはファイリングを工夫して整理し、背表紙を見やすく分かりやすくしたことで監査時にもすぐ対応できるようになり便利になった。また、文書については「ファイル名一覧」を活用し文書管理が容易になった。

(6) 財務計画

- * **公認会計士との連携・協力** 財務関係は常に事務長と会計士との連携を密にし、財務の管理・運営がしやすくなるよう努めた。また、収入金の管理・記帳・預金・支払事務が円滑にできるよう努めた。予算流用の用紙も整備し、県の監査に対応できるようにした。
- * **補助金関係事務** 期限を守り正確に申請書を作成し、本年度もほぼ予想通りの予算を確保することができた。

Ⅱ 経営方針

建学の精神と幼稚園教育要領に基づき、人間として調和のとれた子どもの成長と発達を促し、心身ともに健全で主体的に生きる力を持った子どもの育成を念頭に、教育目標の実現をめざしてきた。

1 教育目標の達成状況

「心豊かで健やかな子」については、どの学級のどの子どもも心身ともに大きく成長し、特に各学級担任は何よりも充実感を得ている。園生活になじみにくい子、発達にバランスを欠く傾向のある子なども担任・級友の温かい励ましや周囲の優しいまなざしの中で遊びや活動に参加し健やかに成長した。また、関係機関の助言・協力のもと、発達が気になる子の状況を全員が把握して保育に当たったり、おとなしい子が隠することなく自分を表現できるようになったり、発達障害の疑われる子が友達に混じってごく普通に活動できるようになるなど、全職員の共通意識の下でみんな元気に大きく育ち、目標を達成することができたと思う。

- (1) **創造性豊かな子** 子どもの(見て、見て!)や(やってみたい!)を大事にしてきた結果、活動や遊びの中で子どもの考え(アイディア)が採り入れられ生かされるような場面が多くなった。砂場・雨上がりの運動場・お絵かき・製作等の活動は、すべて創造性を豊かにするものであり楽しさいっぱいという感じがした。保育者の見守り・サポートのさじ加減も楽しさを醸成していた。
- (2) **思いやりのある子** 生活場面の中でいたるところで、親切な行為が見られるようになった。遊具の譲り合い、泣く子を心配して手をさしのべる子、手洗いでハンカチを貸してあげる子、給食を優しい言葉で意欲づける子、自分の作業を中断して下の子の作業をサポートする子、片づけを手伝う子など・・・異年齢活動に触発された部分も少なくないと思われる。

(3) **自然に親しむ子** 雨蛙・だんご虫・ミミズ・バッタ・トンボ・カマキリなどの生き物に対する興味はすばらしい。また、園庭の花壇の花にも関心を寄せたり、季節の移り変わりに木の葉の色の変化に気づいたりしている。園庭でこのように豊かに自然に関われるのは、子どもたちにとって大変幸せなことである。保育者も自然物を使った遊びの紹介に務めた。また、園庭のあちこちに栽培されている野菜や実のなる木に興味を持つ子が増え、食育の一端を担っている。園外保育も好天に恵まれて実施することができてよかった。

(4) **たくましさのある子** 一学期にはあんなに弱々しかったのに二学期になって急に元気になり、鉄棒や雲梯ができるようになったりサッカーボールを力強く蹴る姿が見られたりして嬉しい限りである。遊び方も全身で遊んでいるという感じがして、たくましさが一層増してきたように思う。広い園庭を走り回って、日々、子どもたちが健康な体の土台づくりをしていることを実感している。また、日増しに友達と関わる遊びが増え、関わり方も上手になっていく様子がたくさん見られた。本年度の特徴として年長が取り組む鉄棒や雲梯などの運動が自然な形で年中年少にと広がってきたことがある。本年度は年度当初から、持久走を採り入れた。走力が付き、表情にも明るさが増した。

明るく元気で伸び伸びと遊べて、あすなろの念願する子ども像である5A（ファイブA）に向かって、子どもたちは目標を大きく達成しているようだ。

2 各諸行事の推進状況

- * コロナウィルスが感染拡大する中、園行事は縮小や保護者の人数制限をし、実施した。
- * 年長児のキャンプファイヤーも楽しく実施することができた。肝試しは、保護者の協力を得て実施した。子どもたちにとって貴重な経験ができたと思われる。夏祭りは地域にも根付いてきており、大勢の来場者があった。
- * 運動会は規模を縮小して実施した。テントを張るなど暑さ対策にも取り組んだ。
- * 生活発表会は、出し物がいろいろと工夫されて見ごたえがあった。子どもたちの意気込みと教師の熱意によって大成功、保護者も感動でいっぱいであった。運動に関する発表が定着して、発表会以降運動に取り組む子が他学年にも広がっていった。
- * その他、園外保育も順調に実施され、怪我もなく安全に実施できて所期の目的を達成することができた。
- * 年間計画を地域の小中学校行事を十分調査を行った上で作成したことでスケジュールが重なる事が殆どなかった。
- * リレー大会は園児保護者共に関心が高く、寒い時期であったが盛り上がり

った。学年ごとコースを変えたのも適切で、たくましく園庭を駆け回る子どもたちの姿に感動を覚えた。

- * 儀式的な行事、入園式・卒園式・始業式等も幼稚園らしい雰囲気の中で行われた。特に卒園式における年長児のしっかりした態度から、園生活が充実していたことを十分感じることができた。保護者の感激する姿が印象的であった。

3 保育の状況（職員の反省会より）

- ※自然を生かした製作をすることで、季節を感じることに繋がった。
- ※昨年度、年少を担当した経験が生きた。声を張りすぎていたので話し方の工夫を心がけたい。子どもたちに「どうしたらいい?」と聞くようにして自分で判断する機会を意識してつくった。
- ※こども自身が、おもしろいと楽しめる工夫や環境作りを見直したい。
- ※年長から年少であったのでギャップがあった。クラスにまとまりができた。いろいろなことにチャレンジできた1年であった。ただ、自分でもっと頑張らなくてはと感じている。
- ※集団生活が上手にできるようになってきた。言葉で伝えることの難しさを感じた。3年間の保育を通じて多くのことを経験できた。これを今後に生かしていきたい。
- ※がんばることでできるようになる嬉しさを体得させることができた。些細なことでもできたことにより自信をつける子もいた。初めての一人担任だったが、多くを学んだ。来年度に活かしていきたい。
- ※運動面で意欲がなかったが、この部分が一番伸びた。自分自身が指導の達成感を持つことができた。底上げのために待たせてしまった子もいた。ここを大切にしたいうえで集団を大切にしていきたい。
- ※クラスの一員という自覚が出てき始めた。話もしっかりと聞けるようになってきた。年少児への鉄棒指導が難しかった。小学校との交流の難しさを感じた。
- ※コロナ禍でいろいろな対応等をしなければならず、大変な1年だった。